

# 幅広い学びを楽しむ

VRなど仮想世界を創り出す技術を都市計画に生かしている崇城大工学部の古賀元也准教授(42)に、コロナ禍の講義で活用するメリットなどを聞いた。

(藤山裕作)

コロナの影響で大学のオンライン講義は当たり前



崇城大工学部の古賀元也准教授

## 崇城大 古賀元也准教授に聞く

なった。海外と比べて遅れがちだったデジタル化が一気に進み、転換期を迎えたともいえる。

ただ、オンラインの画面を長時間見続けて学ぶのは学生には「つらい」「集中できない」との声もある。そんな中、VR技術で創った仮想の「教室空間」で学ぶのは、学生一人一人に合ったレベルの学びを提供し、幅を広げる場にもなるのではないか。仮想空間にさまざまなコンテンツを用

意し、学生が自由に選ぶことも可能になる。

また仮想空間で、分身キャラクター「アバター」は、学ぶ意欲を刺激するエンターテインメント性を兼ね備えている。学びを楽しむことは重要だ。アバターを使って、海外の学生と会話することも、緊張せずに意見交換でき、心にゆとりが生まれることも期待できる。

タブレット端末の進歩などで、誰でも手軽に建築物や街をスキャンして仮想世界を創り出す時代。防災や観光などさまざまな分野で活用が広がっている。